

【授業研究3】 高等学校第3学年「子供のいる駅」

(1) 授業研究にあたって

「見通しをもって読み解く国語科指導法」という研究主題に基づいて、高等学校では、生徒が自分の目標をもって、小説学習に主体的に取り組めるように考えてみた。生徒が見通しとしての目標をもてるように、学習課題作りを取り入れた。生徒の興味や疑問を生かして、学習課題を作ることにより、その学習課題を見通しとして、意欲をもって主体的に追究できる在り方を考えた。

黒井千次作の「子供のいる駅」は、子供を主人公にした短編小説で、現代社会を鋭く描いた非現実的な小説である。主人公の心情の推移が順を追って細かく描かれているので、登場人物の心情を読み取る力を高めるのに適した教材である。授業形態はグループ学習の形態をとった。次はその学習指導案である。

高等学校(普通科)第3学年 国語科学習指導案

- 1 単元(教材)「子供のいる駅」(黒井千次)
- 2 目標(省略)
- 3 単元について(省略)
- 4 指導計画(5時間取扱い)
 - 第1次 全文を読み、初発の感想を話し合い、学習課題を設定し、学習の見通しを持つ。
 - 第2次
 - 第1時 子供にとって初めての一人旅の意味を考える。
 - 第2時 駅から出られなくなると気づくまでの展開と心情を読み取る。
 - 第3時 駅から出られなくなると以後の心情を小説の展開に沿って読み取り、主題を自分なりに考える。(本時)
 - 第3次 読後感をまとめ、発表する。

5 本時の指導

- (1) 目標 駅から出られなくなると以後の行動・心情を、小説の展開に沿って読み取ることにより、主題を自分なりに考えることができる。

(2) 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 本時の学習活動を話し合い、見通しをまとめる。 駅から出られなくなると以後の行動・心情の推移をまとめることにより、主題について考えることができる。	・課題をもとに本時の見通しを持たせる。 ※課題から、見通しをもつことができたか。(机間指導)
2 駅から出られなくなると以後の行動・心情を小説の展開に沿って、読み取る。 (1) 構内にいる子供達に出会うまでの主人公の行動・心情について話し合い、まとめる。 ・乗降客が増えてきてどんなことを考えたか。 ・「隠れよう」と決心した理由は何か。 (2) 構内にいる子供達に出会った後の心情について話し合い、まとめる。 ・「今日からここが僕のうちだ」というテルの心情。 ・大人になるまで僕はここからでないだろう。	・学習プリントにより考えをまとめさせる。 ・課題について読み取ったことを、自分の言葉でノートにまとめさせる。 ・駅という空間の意味を手がかりに考えさせる。 (グループ学習時の教師の働きかけ) ・読み解きの手順のよいグループを紹介する。 ・読み解きの遅れがちなグループには具体的に示唆する。
3 構内にいる子供たちは何を意味しているか、ノートにまとめる。	・構内にいる子供たちの意味を自分なりに考え、主題に結び付けさせる。
4 本時の学習を振り返り、次時の学習内容について話し合う。 (1) 本時の学習について自己評価する。 (2) 次時の学習内容の見通しをまとめる。	※課題を作り、その問題解決の方法は自ら取り組み、他者と話し合い、自分の考えを深めていくことができたか。 ・自己評価カードに記入させ、次時への意欲づけとする。

※は、評価

(2) 見通しとしての学習課題作り

ア 内容確認のための全文音読

学習課題を作るにあたって、小説の内容を確認するために、教師が音読した後、生徒各自が音読するようにした。

イ 個人の学習課題作り

全文を音読した後、感想文を書く。その感想文の中に、学習課題を作るもととするために、疑問やもっと深く読み取りたいことも書き入れることとした。

ウ グループごとの学習課題作り

各自の感想の中で、共通する疑問やもっと深く読み取りたいことをもとにグループの学習課

題を作る。

エ クラス共通学習課題作り

グループごとの学習課題の中で共通するものをクラス共通学習課題として作った。結果的に、段落ごとの学習課題となった。その学習課題を学習プリントにして配付した。

(3) 学習課題の追究

ア 学習課題にそっての個人学習

クラス共通の学習課題をまとめた学習プリント（資料6）をもとに授業を進めた。本時の学習課題は、構内にいる子供たちに出会うまでのテルの行動・心情と出会ってからのテルの行動・心情を読み取ることである。各自が学習プリントを学習し、考えをノートにまとめた。

イ 教師による机間指導

追究の手順のよいグループには発表を促し、他のグループの参考とした。また、追究にとまどいがちのグループには具体的に示唆した。例えば、構内にいる子供たちを考えると、教師が「実際に子供たちは階段の下にいたのか。」と虚構性を問いかけた。ある生徒から「駅から出られなくなった子供たちの気持ちであり、幻影なのではないか。」という意見が出た。この問いかけは、写実的な描写ではなく幻想的な描写であることを理解するのに有効な問いかけであった。

ウ グループでの話し合い

課題について読み取ったことを、自分の言葉でノートにまとめる。その後、グループごとに話し合い、発表する。一斉学習とは違った形態で、グループごとに話し合い活動が行われ、どの生徒も自分の考えをグループの生徒に分かるように伝えようとした。その考えに対する意見交換が円滑にいくように、助言した。「今日からここが僕のうちだ。」というテルの心情を考える学習課題では、自分と同じようなことをしている少年たちとの出会いを考えた後、あきらめとここで暮らしていかなければならないという決心をグループの話し合いの中で読み取った。

(4) 考 察

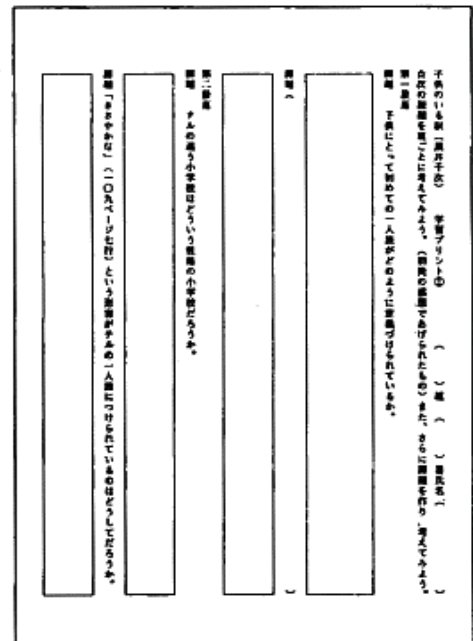
ア 学習課題作り

学習課題は読み進めていくためのめあてになった。生徒個人によって、理解の度合いが異なるので、段落ごとの具体的な学習課題を作るように心掛けて、生徒自身の疑問や読み深めたいことをもとにして、学習課題を作ったので、生徒は興味や意欲をもって学習課題作りに取り組んだ。しかし、共通の学習課題を作るにあたって、個人やグループに共通する疑問や読み深めたいことを集約して共通の学習課題としたため、生徒個人の問題意識を生かすできなかったことは、今後の課題である。

イ 学習課題の追究

生徒は、自分たちで作った学習課題をもとに学習活動が展開したので、意欲をもって主体的に学習に取り組めた。生徒個人によって理解の度合いが異なるので、グループや生徒個人に対

資料6 学 習 課 題



して、机間指導をおこなった。グループ学習は、話し合いの中で新たに気付いたり、読みが深められたりしたので効果的であった。しかし、グループ学習は、長い期間をかけて意図的に訓練していかないと、生徒が活発に学習活動を展開しないという面もあった。

【授業実践4】 高等学校第1学年「虫のいろいろ」

(1) 授業研究にあたって

「見通しをもって読み解く国語科指導法」という研究主題に基づき、生徒が小説の学習に主体的に取り組むための指導法を考えた。出来るだけ生徒自身の力で目標を達成できるように、教師はどのようなかわり方をしたらよいか検討した結果、発問の組み立てを工夫することを試みた。

「虫のいろいろ」は、高等学校に入学して初めての小説教材である。この小説はユーモアのある短い作品であり、生徒が抵抗なく読むことのできる教材である。ここでは、心情を読み取ること重点をおいて授業を実践することにした。次はその学習指導案である。

高等学校(機械科) 第1学年 国語科学習指導案

- 1 単元(教材) 小説(一) 虫のいろいろ(尾崎一雄)
- 2 目標(省略)
- 3 単元について(省略)
- 4 指導計画(6時間取扱い)
 - 第1時 全文を読んで、初発の感想を書く。(教科書に載せていない部分もプリントして配付)
 - 第2時 第1段落を通読し、辞書を用いて重要語句の意味や漢字の読みを調べる。
 - 第3時 登場してくる虫や人物から、誰が主人公なのかをつかむ。また、主人公の気持ちの変化を読み取る。(本時)
 - 第4時 第2段落を通読し、辞書を用いて重要語句の意味や漢字の読みを調べる。
 - 第5時 「私」と「家の者」との考え方の相違を整理し、主人公の気持ちを読み取る。
 - 第6時 配付された「まとめのプリント」をやり、勉強してきた内容を確認する。

5 本時の指導

- (1) 目標 主人公をとらえ、話題を整理して、主人公の気持ちを読み取ることができる。

(2) 展開

※は評価

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 第1段落の中で、登場してくるものを抜き出す。 のみ、蜂、私、友人 2 のみ、蜂、私、友人が登場していることがわかったところで主人公は誰かを読み取る。 小説を読むときの注意点 <ヒント1> 主人公の気持ちの変化を押さえることが大事。 <ヒント2> 気持ちを表す文章が多く書かれているものを探し出す。	・教師の音読後、生徒各自に黙読させ、登場してくるものすべてに傍線を引かせる。 ・発問とヒントによって、主人公をつかみ見通しを持たせる。 ・発問し、指名した生徒に発表させる。発表ができないときは<ヒント1>・<ヒント2>を出す。 ※主人公は虫でなく「私」であることがつかめたか。(発表)
3 のみ、蜂の話は話題であることがつかめたところで、 ①両者の話題を整理する。 ②両者の話題を比較する。 できるのにあきらめてしまったのみ 不可能を可能にした蜂	・のみ、蜂の話は第1段落のどこからどこまでに書かれているかを発問する。 ①両者の行動を箇条書きにして、まとめさせる。 机間指導をし、整理できない生徒には助言する。 ②こののみと蜂の違いを発問し、正反対であることに気付かせる。
4 主人公の心情を読み取る。 (1) 主人公の置かれている状況をつかむ。 「私」は健康を害して自宅で臥している。 (2) 主人公の心情の変化をまとめる。	・文中に「私」の置かれている状況がわかるところに傍線を引かせる。 「東京から見舞いがたら遊びに来た友人」 ・第2段落にも目を向けさせ、探させる。 「はえは、うるさい。もう冬だから、陽盛りにしか出て来ないが、布団にあごまで埋めた私の顔まで遊び場にする。」 ・のみと蜂の話聞いた後の私の気持ちを文中から抜き取らせ、どのように変化したかを考えさせる。 ※主人公の気持ちがマイナスの気持ちからプラスの気持ちに変化していることを読み取れたか。(発表)
話題のみ 私 ———— 物憂さ ↓ 蜂 ———— 勇気づけられる	± - +